

硬膜移植後Creutzfeldt-Jakob病における頭部MRI拡散強調画像の検討

研究代表者: 金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科学) 山田正仁

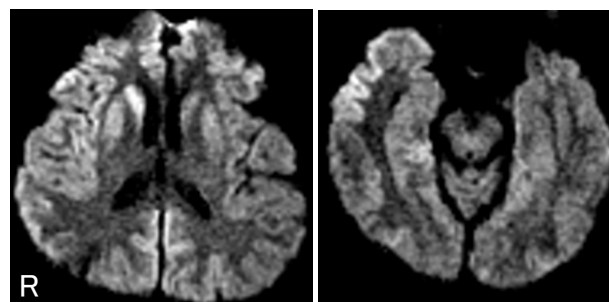
表 1. 検討した 4 症例のプロファイル

症例	性別	発症時 年齢	移植時 年齢	移植から発症まで の期間(年)	診断の確実度	タイプ分類
1	男	37	18	18	確実	非プラーク型
2	女	33	11	22	ほぼ確実	非プラーク型
3	男	61	36	25	ほぼ確実	非プラーク型
4	男	44	20	24	ほぼ確実	非プラーク型

表 2. 移植部位と拡散強調画像(DWI)高信号部位の関連

症例	移植部位	DWI 高信号部位				
		前頭葉	側頭葉	頭頂葉	後頭葉	基底核
1	右前頭部	両側	右	-	両側	両側
2	右前頭頭頂部	両側	右	両側	-	両側
3	後頭部	-	右	右	両側	-
4	右側頭後頭部	両側	両側	両側	両側	両側

- 症例1のDWI画像呈示
- 移植部位: 右前頭部
- 原因疾患: 頭部外傷
- 発症後2ヶ月後のDWI画像にて、右側優位の両側前頭葉、後頭葉、大脳基底核、右側頭葉に高信号を認める



解 説

1. 非プラーク型の硬膜移植後Creutzfeldt-Jakob病において、硬膜移植部位と発症時のDWI高信号の領域には関連があることが示唆される。
2. プラーク型の症例も含めたより多数例での検討が必要である。
3. SPECTやPETといった機能画像での評価も重要である。